

微生物課

1. 微生物係

1) 試験検査業務

微生物係が平成9年度に実施した試験検査業務は、行政収去・行政依頼等による細菌検査、食中毒・苦情等の試験検査及びその他一般依頼による各種細菌検査である。検査件数を区分毎に表1に示した。

(1)食品収去検査

食品収去検査のうち細菌検査は検体数 1,703 件、検査項目数 5,254 件であった。

内訳を表3に示した。

(2)食中毒・苦情細菌検査

検査依頼のあった細菌性食中毒及び有症苦情は 100 事例、無症苦情は 24 事例であり、検査検体数は計 1,509 件(ヒト便・吐物 579, 菌株 35, 食品 599, ふきとり 281, その他 15)であった。

100 事例の食中毒及び有症苦情のうち、原因菌が特定できたのは 45 事例で、判明率 45.0 %であった。腸炎ピブリオによるものが 19 件と最も多く、次いでサルモネラ 15 件、カンピロバクター 5 件、腸管出血性大腸菌 3 件(いずれも病院、または民間検査センターで検出されたもの)、セレウス菌、黄色ブドウ球菌、溶連菌によるものが各 1 件であった。内訳を表4に示した。

なお、検査依頼のあった食中毒・有症苦情・無症苦情の細菌検査結果及び細菌性食中毒発生状況(厚生省報告例)を「資料」に記載した。

(3)環境衛生・環境保全関係細菌検査

保健所依頼のプール、公衆浴場、専用水道、おしぼり(リネン関係)、環境局環境保全部依頼の海水浴場、河川、海水、事業場排水及び局外依頼の飲料水、河川水の細菌検査を検査項目毎に表2に示した。

(4)一般依頼検査

5件の一般依頼検査があった。内訳を表5に示した。

2) 検査以外の業務

(1)研修指導

新任の食品衛生監視員 6 名に対して細菌検査技術研修を実施した(平成10年2月9日~2月13日)。

(2)情報収集・解析・提供

「病原微生物検出情報」に毎月のデータを報告するとともに、そのデータをコンピューターのファイルとして保存した。

表1 平成9年度検査件数

区分	計	行政依頼			市民	
		保健所	環境局	その他		
総計	4,359	3,671	670	13	5	
食品衛生	計	3,223	3,212		6	5
	食品収去	1,703	1,703			
	食中毒・苦情	1,509	1,509			
	局外依頼	6		6 ¹⁾		
	一般依頼	5				5
環境保全	計	461	459		2	
	専用水道水	34	34			
	プール水	281	281			
	公衆浴場水	121	121			
	リネン ²⁾ 等	16	16			
	飲料水	8	6		2 ³⁾	
	その他	1	1			
環境保全	計	675		670	5	
	河川水	283		278	5 ³⁾	
	海水	128		128		
	海水浴場水	158		158		
	事業場排水	106		106		

*1 教育委員会 *2 土木局 *3 城南区役所

表2 平成9年度環境衛生、環境保全関係検査内訳

区分	検体数	検査項目									
		計	一般細菌数	大腸菌群	糞便性大腸菌群	病原性大腸菌	糞便性連鎖球菌	ブドウ球菌	官能検査	その他	
総数	1,136	1,322	31	976	154	64		16	16	65	
生活衛生	計	461	604	31	426	29	21		16	16	65
	専用水道水	34	98	6	34	29					29
	プール水	281	292		281		11				
	公衆浴場水	121	131		86		9				36
	リネン ²⁾ 等	16	64	16	16				16	16	
	飲料水	8	17	8	8		1				
	その他	1	2	1	1						
環境保全	計	675	718		550	125	43				
	河川水	283	288		278	5	5				
	海水	128	128		128						
	海水浴場水	158	196		38	120	38				
	事業場排水	106	106		106						

表3 平成9年度食品細菌除去検査件数

試料	検体数	検査項目										その他													
		計	生菌数	大腸菌群	ふん便系大腸菌群	サルモネラ	腸炎ビブリオ	ブドウ球菌	アグラーゼ陽性菌	セレウス菌	エルシニア		カンピロバクター	ボツリヌス	リステリア	カビ	酵母	乳酸菌	総菌数	クロストリジア	恒温試験	無菌試験	腸球菌	緑膿菌	抗生物質
計	1,703	5,254	1,384	1,268	99	451	126	767	15	10	280	7	3	77	81	5	3	8	13	13	11	11	186	435	1
生乳(原乳)	3	15				3		3			3												3		
牛乳・乳飲料等	31	79	31	31																					17
発酵乳・乳酸菌飲料	5	10	5	5												5									
バター・チーズ類	8	8	5	5										3											
生肉・ミンチ肉	198	780	107	97	167	167	92	92		10	190												106	11	
食肉製品	47	198	46	6	40	40	40	40										8							18
刺身類(鮮魚介類)	47	146	43	41		41	1	1																	20
生力キ	20	66	13	13			20	20																	20
養殖魚介類	14	19				5																	14		
魚介類加工品	34	85	34	1			33	33							1										16
ウニ・めんたい	72	238	72	72	8		8	8							64										14
魚肉練り製品	60	117	57	57																					3
海藻類	2	4	1				1	1																	2
惣菜	163	531	153	154		22	3	151	9						1										38
和洋生菓子	93	407	93	93		40	1	171	6		2														110
氷雪	5	10	5	5		36		93			4														29
冷凍食品	22	69	22	18	4	8		9							1										7
穀類・麺類	47	159	47	33	14			47																	18
豆	65	132	64	64		1	1	1																	1
アイスクリーム類	101	202	101	101																					
漬物	18	98	16		17		15	15							16	16									18
野菜・果物類	23	28	2	4				1																	21
清涼飲料水	55	129	51	55																					23
ミネラルウォーター	11	44	11	11																					
瓶詰・缶詰・レトルト	13	26																		13	13				
鶏卵・液卵他	71	315	25	26		71		26			66												55	46	
ハチミツ	7	14										7													7
健康食品	7	14	7	7																					
ドレッシング	1	1	1																						
食材	11	38	8	8		6		8			5														3
食・保存食	8	23	8	8		7																			
ふきとり	140	433	138	140		33		115			7														
その他	49	121	47	43	3	12	3	9			3														1

表4 平成9年度食中毒, 有症苦情および無症苦情細菌検査内訳

	検 体 数	サ ル モ ネ ラ	腸 炎 ビ ブ リ オ	コ ア グ ラ ー ゼ 陽 性 ブ ド ウ 球 菌	病 原 大 腸 菌	ウ エ ル シ ユ 菌	セ レ ウ ス 菌	エ ル シ ニ ア	カ ン ピ ロ バ ク タ ー	ナ グ ビ ブ リ オ	ビ ブ リ オ フ ル ビ ア リ ス	エ ロ モ ナ ス ハ イ ド ロ フ イ ラ	エ ロ モ ナ ス ソ ブ リ ア	プ レ シ オ モ ナ ス シ ゲ ロ イ デ ス	生 菌 数	大 腸 菌 群	カ ビ ・ 酵 母	ブ 菌 エ ン テ ロ ト キ シ ン	そ の 他
ヒト便・吐物	579	509	373	335	152	286	291	286	332	277	277	159	159	172	0	0	0	0	0
菌株	35	18	14	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
食品(残物・参考品)	599	276	252	224	185	108	160	105	204	144	144	55	55	54	60	215	7	0	82
ふきとり	281	202	166	136	40	42	83	36	85	38	38	4	4	4	0	182	0	0	4
その他	15	7	6	4	2	3	3	3	3	3	3	0	0	0	0	4	0	0	4
計	1509	1012	811	699	379	439	537	430	627	462	464	218	218	230	60	401	7	0	90

表5 平成9年度一般依頼検査内訳

試料	検 体 数	検 査 項 目		
		計	一般細菌数	大腸菌群
計	5	8	5	3
魚介類加工品	2	2	2	0
惣菜	1	2	1	1
アイスcream類	2	4	2	2

2. 臨床検査係

臨床検査係が平成9年度に実施した試験検査業務は腸内細菌検査、赤痢アメーバ等の原虫検査、梅毒血清反応、結核菌検査、飲料水適否細菌検査、ダニ等の衛生害虫検査及び保健所外来検査（出向）であり、試験検査業務と検査件数は表1のとおりである。

表1 検査件数総括表

区 分	依頼によるもの		自らの調査研究によるもの
	保健所	保健所以外の行政機関	
計	14,459	7,544	108
小 計	11,590	7,544	108
細菌			
腸内細菌	7,768	7,544	—
その他の細菌	—	—	—
結核菌	98	—	—
・原虫（赤痢アメーバ）	15	—	—
衛生害虫（ダニ）	58	—	—
梅毒血清反応	240	—	—
飲料水細菌検査	3,411	—	—
河川調査	—	—	84
下水のコリファージ	—	—	24
小 計	2,869	—	—
尿			
一般検査	2,580	—	—
沈 渣	22	—	—
便			
寄生虫	76	—	—
潜血反応	1	—	—
血			
血液一般	139	—	—
ABO式血液型	37	—	—
Rh式血液型	14	—	—

1) 腸内細菌検査

腸内細菌検査は15,312件で内訳は、健康診断等の一般依頼2,118件、食品取扱従事者を対象とした勸奨検便3,940件、学校給食調理員等の検便7,544件、赤痢、チフス、コレラ、腸管出血性大腸菌等の防疫検便1,710件である。（表2）

本年度の保健所等からの依頼検査は13,602件でその内、サルモネラが5株検出された。法定伝染病菌は赤痢菌（S.flexineri2a）が1株検出されたが、その他の法定伝染病菌であるチフス、パラチフスは検出されなかった。腸管出血性大腸菌は8株検出され、その内訳はO157:H7,VT2(+), O26:H11,VT1(+), O28ac:H28,VT1(+), O142:HUT,VT1(+), OUT:H2,VT2(+), OUT:H21,VT2(+))がそれぞれ1株ずつ、OUT:HUT,VT1(+))が2株であった。

防疫検便については、真性患者が発生した事例は、細菌性赤痢25事例、アメーバ赤痢4事例、腸チフス2事例、コレラ2事例、パラチフス1事例であった。平成9年度は細菌性赤痢の発生が多くみられ、25事例中22事例はエジプト、東南アジア、インド、中国、モンゴル、フィリピン、ネパール等の海外渡航関連であった。残る3事例についてはいずれも海外渡航歴がなく、感染源については不明である（検出状況及び概要は資料に掲載）。

平成9年度における市内の腸管出血性大腸菌感染者の状況はO157（25例30人）、O26（5例46人）、O111（1例2人）、O28ac（1例3人）、O142（1例1名）、及びOUT（6例6人）の計39事例88名で、感染者の内訳は成人男7名、成人女28名、未成年男29名、未成年女24名で、20名は健康保菌であった。

表2 腸内細菌検査件数

区 分	計	東	博多	中央	南	西	城南	早良	学校
総 計	15,312(98)	772(12)	1,533(28)	1,167(18)	1,701(8)	616(3)	866(19)	1,113(10)	7,544
依 頼									
小 計	13,602	617	1,209	1,092	1,232	384	702	822	7,544
一 般	2,118	158	455	453	282	109	277	384	—
勸 奨	3,940	459	754	639	950	275	425	438	—
学 校	7,544	—	—	—	—	—	—	—	7,544
行 政									
小 計	1,710(98)	155(12)	324(28)	75(18)	469(8)	232(3)	164(19)	291(10)	—
コ レ ラ	84(35)	4(4)	10(4)	7(4)	8(4)	7(1)	39(14)	9(4)	—
チ フ ス	17(1)	15(1)	—	1	—	—	—	1	—
パ ラ チ フ ス	1(1)	—	—	—	1(1)	—	—	—	—
赤 痢	474(43)	28(6)	110(10)	30(14)	22(3)	4(1)	12(4)	268(5)	—
経 過 者	37	10	1	13	6	3	—	4	—
海外旅行者	6(6)	1(1)	4(4)	—	—	—	1(1)	—	—
E H E C	1,081(2)	97	189	24	432	218(1)	112	9(1)	—
そ の 他	10(10)	—	10(10)	—	—	—	—	—	—

() 海外旅行者再掲

10人以上の集団事例は7月に市内保育所においてO26:H11,VT1(+)による事例があり、患者家族及び保育園関係者のべ437名中44名から同血清型を検出し、届出から終息まで20日間に及んだ(事例報告参照)。また、O157 散发事例中、患者宅の飼い犬からO157:H7,VT1&2(+)が検出された事例もあり、PFGEにより患者分離株と同一株と推察されたが感染源については不明であった。

病院及び民間検査センター等の施設からの同定依頼検査は、46株で同定の結果、赤痢菌2株、チフス菌1株、サルモネラ菌13株、コレラ菌1株、NAG1株、EHEC20株、その他の大腸菌8株であった。

届出のあったチフス菌2株についてファージ型別を依頼した結果はM1型及びUVS1型であった。

2) 赤痢アメーバ検査

赤痢アメーバ症は4事例の届出があった。

アメーバ赤痢の検査には排出便を用い、イチゴゼリー状(膿瘍等)の場合に直接鏡頭、固形便の場合はホルマリン・エーテル法によりシストを確認したものについて塗抹染色を行った。また、必要に応じて血清検査も実施した。本年度届出があった4事例のうち3事例から栄養型が検出された。そのうちの1事例はタイ、インドに数ヶ月間の旅行をしており、帰国後も下痢、血便があり、帰国3ヶ月後に医療機関を受診し、エコーにて肝膿瘍及び腸ファイバーで潰瘍が見つかり、腸液から栄養型が検出された事例であった。残りの1事例については栄養型は検出されず、病理診断によるものであった。

なお、患者家族及び接触者等のべ14名と経過者1名の計15名の検査を行ったが、赤痢アメーバは検出されなかった(表1)。

3) 梅毒検査

梅毒血清反応は240件の検査を実施した。その内訳は一般依頼189件、行政依頼は婚姻50件、性病予防1件であった。(表3)

検査方法はTPHA法、ガラス板法及び凝集法を同時に実施し、必要に応じてFTA-ABS法を実施した。

陽性件数は4件(1.7%)であった。

表3 梅毒血清反応検査件数

区分	ガラス板	凝集	TPHA	FTA-ABS
計	240	240	240	1
一般依頼	189	189	189	0
行政				
婚姻	50	50	50	0
性病予	1	1	1	1

4) 結核菌検査

結核菌検査は市内の7保健所から依頼があった98件の検査を実施した。塗抹・培養ともに1件ずつが陽性であったが、非定型抗酸菌であった。(表4)

通常の検体は、管理検診によるものが主であるが、今年度は、市内の大学での集団感染による定期外検診による検体の増加がみられ、これらの検体についてはPCR法を併用した。

表4 結核菌検査件数

区分	計	東	博多	中	南	西	城南	早良
検査件数	98	43	9	6	12	25	3	3
塗抹陽性	0	1	0	0	0	0	0	0
培人型	0	0	0	0	0	0	0	0
養非定型	0	0	0	0	0	1	0	0

5) 飲料水の細菌検査

飲料水の細菌検査は、井戸水2,088件、浄水1,007件、その他316件であり(表5)、井戸水の依頼検査は一般家庭とボーリング業者からの依頼、浄水の依頼検査は主として「建築物における衛生の確保に関する法律」に基づくものである。

なお、井戸水の不適件数は760件(36.4%)であった。

表5 飲料水細菌検査件数及び不適件数

区分	計	井戸水	浄水	その他
計	3,411(860)	2,088(760)	1,007(50)	316(50)
東	428(119)	237(103)	179(11)	12(5)
博多	296(64)	117(43)	70(4)	109(17)
中央	479(69)	142(43)	283(15)	54(11)
南	741(208)	587(191)	144(15)	10(2)
西	492(167)	359(158)	21(2)	112(7)
城南	411(110)	296(104)	108(3)	7(3)
早良	559(122)	349(117)	198(0)	12(5)

() は不適件数

6) 衛生害虫検査

平成9年度の衛生害虫の検査依頼は58件であった。市民からの苦情相談による依頼と、衛生連合会環境部会の事業による依頼であった(概要については資料に掲載)。

7) 保健所外来検査

市内の7保健所で実施している一般健康相談のため、職員1名が出向(7日/月)し、尿、血液検査等を実施している。検査件数は2,869件であった。

表6に各保健所での検査件数を示す。

表6 保健所外来検査件数

区分	東	博多	中央	南	西	城南	早良	
計	740	344	515	406	263	321	280	
尿	一般検査	684	325	455	326	235	293	262
	沈渣	6		10		3	2	1
	寄生虫	3	3	4	55	6	2	3
便	潜血反応							1
	血液一般	32	12	41	12	15	18	9
	ABO式血液型	10	4	5	8	4	4	2
血液	Rh式血液型	5			5		2	2

3. ウイルス検査担当

平成9年度に実施した試験検査業務は、伝染病予防法に基づくインフルエンザウイルスの分離・同定および血清抗体検査、日本脳炎患者抗体検査および流行予測としての日本脳炎豚抗体検査、また市民からの依頼によるHIV（エイズ）、風疹の血清抗体検査、感染症サーベイランス事業のウイルス検査である。

また市内の病院等からのウイルス分離同定検査依頼や、保健福祉局、水道局、各区保健所衛生課からの電子顕微鏡を用いる検査依頼にも対応した。各検査業務内容は以下のとおりである。

表1 ウイルス検査検体数総括

区 分	依 頼 別			計
	保健所	一般依頼	その他	
計	126	1,259	646	2,031
インフルエンザ(集団発生)	69			69
日本脳炎豚抗体検査			280	280
HIV抗体検査		1,047		1,047
風疹抗体検査		210		210
ウイルス性食中毒	41			41
感染症サーベイランス事業 ウイルス検査			296	296
下水調査			24	24
電子顕微鏡検査	16	2	36	54
その他のウイルス検査			10	10

1) インフルエンザ

平成10年1月の集団発生事例3施設24名69検体と、12月～3月にかけて搬入された散発事例(サーベイランス事業及びその他のウイルス検査)の患者117名117検体を対象に、MDCK細胞を用いてウイルス分離を行った。

その結果、集団発生事例よりA(H3)型が7株、散発事例よりA(H1)型1株、A(H3)型48株のインフルエンザウイルスが分離された。(詳細は事例報告に記載)

2) 日本脳炎

平成9年度も当市における患者発生はなかった。

また平成7年より当所で日本脳炎流行予測調査を実施しているが、9年度は6月下旬から9月下旬まで週1回14週にわたり、福岡市近郊の飼育豚20頭(合計280頭)のHI抗体保有状況を調査した(表2)。

表2 豚の日本脳炎HI抗体保有状況

採血 月日	頭数	HI抗体		2ME感受性		
		陽性数	陽性率(%)	頭数	陽性数	陽性率(%)
6.30	20	0	0			
7.07	20	0	0			
7.14	20	1	5			
7.22	20	0	0			
7.28	20	3	15			
8.04	20	2	10			
8.08	20	0	0			
8.18	20	3	15	2	2	100
8.25	20	5	25	4	4	100
9.01	20	6	30	6	6	100
9.08	20	5	25	5	5	100
9.16	20	10	50	10	1	10
9.22	20	16	80	16	5	31
9.29	20	11	55	10	1	10

3) HIV(エイズ)

昭和62年10月より保健所で受付けた血液のHIV抗体(HIV-1, HIV-2)検査を当所で実施している。今年度は1,047検体であった。

平成5年度からの年度別検体数の推移を表3に示した。

表3 福岡市におけるHIV検査数の推移

年度	平成5年	6	7	8	9
件数	2,736	1,660	1,369	1,687	1,047

4) 風疹

昭和52年度より妊娠適齢期女性を対象とした風疹抗体検査を保健所で受付け、当所でHI抗体を測定している。

平成9年度は210検体であった。

平成5年度からの年度別検査数の推移を表4に示した。また、平成9年度の年齢群別抗体検査結果の詳細は表5のとおりで、受検者の陰性率は17.6%(37/210)であった。

表4 福岡市における風疹検体数の推移

年度	平成5年	6	7	8	9
件数	487	240	172	159	210

表5 年齢群別風疹HI抗体価

年齢	H I 抗体価								陰性率 %	
	<8	8	16	32	64	128	256	512≤		計
<20	1					2			3	33
20~24	4	3	2	4	3	1	1	1	19	21
25~29	9	5	5	22	21	17	7		86	10
30~34	14	5	11	17	17	9	6	2	81	17
35~39	7		2	1	2	3	3		18	39
40≤	2					1			3	67
計	37	13	20	44	43	22	17	3	210	18

5) ウイルス性食中毒

平成9年5月より、食中毒原因ウイルスにSRSV等が指定された。9年度は8事例36検体であった。うち3事例については原因食品と疑われた生カキの検査も行った。PCR法、マイクロハイブリダイゼーション法、電子顕微鏡法等で、7事例19検体からSRSVが検出された。また生カキからも1件SRSVが検出された。

6) 感染症サーベイランス事業

福岡県結核感染症サーベイランス事業のうち、福岡市分の検査を平成4年度より当所で実施している。平成9年度も8年度にひきつづき6病院7定点で同様に実施した。

本年度は表6のとおり患者243名、296検体が搬入された。(詳細は資料に記載)

表6 結核・感染症サーベイランス検査結果

臨床診断名	患者数	検体数	分離ウイルス
感染性胃腸炎	2	2	
手足口病	4	4	
ヘルパンギーナ	8	8	CA2(4)・CB3(1)・HSV1(1)
インフルエンザ様疾患	150	157	AH1(1)・AH3(46)・B(13) CA2(2)・CA3(1)・CB1(1) Ad1(3)・Ad3(14)・Ad5(1) Ad7(6)・E30(1)・E11(3) HSV1(1)・同定不能(1)
無菌性髄膜炎	29	50	CA9(2)・CB1(1)・CB3(7) CB5(6)・E9(6)・E11(2) E16(1) E30(4)
脳脊髄炎	7	11	AH3(2)
陰部ヘルペス	4	4	HSV1(2)・HSV2(1)
不明発疹症	3	4	E9(1)
その他の疾患	36	56	AH3(1)・CB1(2)・CB3(1) Ad3(1)・Ad11(1)・E11(2) E14(3)・E30(1)・Mu(2) Po3(1)
合計	243	296	分離ウイルス計150株

分離ウイルスの略：CA:コクサッキー-A CB:コクサッキー-B
 AH1:インフルエンザ A(H1) Ad:アデノウイルス
 AH3:インフルエンザ A(H3) E:エコー
 B:インフルエンザ B HSV:単純ヘルペス
 Mu:ムンプス Po:ポリオ

()は分離株数

4. 科学情報システムおよび展示室企画担当

1) 保健環境情報システムの管理運営

平成6年度より整備を行ってきた保健環境情報システムの運用を開始し、保健所と研究所を結ぶパソコンネットワークによりデータの交換を開始した。

本システムの導入により、従来保健所などから手書き書類で行われていた検査依頼の多くをオンライン入力依頼とした。また、保健所窓口で受け付けている飲料水などの依頼検査についても、従前の様式を変更しOMR、OCRを利用した様式とし、研究所での入力の軽減を図った。

本システムを利用している主な業務は下記のとおりである。

- ① 保健所窓口依頼検査（飲料水検査、ビル管項目検査、勧奨検便検査、健康診断検査など）
- ② 食品収去検査（食品化学検査、農薬検査、食品細菌検査など）
- ③ 環境衛生関係検査（公衆浴場検査、プール水検査、リネン検査、し尿浄化槽検査など）
- ④ 公共用水域関係検査（水質検査（河川、海）、底質検査、プランクトン検査など）
- ⑤ 事業場関係検査（特定事業場排水検査、ゴルフ場農薬検査、クリーニング所排水検査など）
- ⑥ 大気関係検査（フロン検査、SPM検査、酸性雨検査、降下ばいじん検査など）
- ⑦ ウイルス関係検査（日本脳炎検査、サーベイランス検査、インフルエンザ検査など）

この他、各種業務に関する月報、季報および年報集計もシステム化された。

2) 研究所内データベースの管理運営

検査依頼に関係しない業務の中で、研究所全体に係わる業務を処理する共通データベースを開発し、研究所内LAN上での利用を促進すると共にその管理運営を行った。

平成9年度に構築したデータベースは下記のとおり

りである。

① 予約管理業務

研究所見学、会議室、庁用車の予約管理を行うデータベース。

② 図書管理業務

定期購読雑誌や他都市研究所報などの受付を行うと同時に蔵書目録となるデータベース。

③ 文書管理業務

研究所にて送受信処理を行った文書の管理、検索を行うデータベース。

④ 研究所報データベース

福岡市保健環境研究所報(旧福岡市衛生試験所報)の目次や報文をデータベース化し、保健所からも検索可能としたもの。

⑤ 地方衛生研究所業績データベース

地方衛生研究所全国協議会により各研究所に配布されている「地方衛生研究所業績集」を、集約し保健所からも検索可能としたもの。

3) 保健環境学習室「まもる一む福岡」の運営

当初、土・日・祝祭日休館で運営を開始したが、平成10年1月5日以降土・日・祝祭日開館、月曜日休館で運営を行っている。平成9年度の利用者数は10,939人であり、各月の詳細利用者は概要の表9の通りである。

「まもる一む福岡」主催または後援行事として10月9～11日に「音の科学展」および11月8日に「ミクロの世界を探検」を開催した。

4) 調査研究

厚生科学研究費補助の指定研究「地方衛生研究所の機能強化に関する研究」の分担研究「地方衛生研究所と保健所の連携による相互の機能強化について」を研究協力者として行った。福岡市の課題は「地研、保健所、本庁を結ぶコンピューターのオンライン化について」である。